

第 213回通常国会

村田きょうこ 「今回の質疑のポイント」 No.10

2024 年 5 月 7 日（火）経済産業委員会



ご安全に！ 参議院議員の村田きょうこです。

「水素社会推進法案*」と、「CCS 事業法案*」の審議が、いよいよ参議院に移ってきました。5月7日(火)の経済産業委員会では、3人の識者に対して参考人質疑を行っています。

※詳細は次頁以降、または YouTube をご覧ください。



【水素社会推進法案】

水素やアンモニア等を「低炭素水素等」と定義し、その活用促進を掲げるための法案。低炭素水素等を国内で製造・輸入して供給する事業者や、利用する事業者が、計画を作成し認定を受ければ、化石燃料よりも高額となる費用について国が支援、また拠点整備に関わる支援も行うことを定めている。

【CCS 事業法案】

現在の技術で 2050 年カーボンニュートラルを実現するには、徹底した省エネや脱炭素電源の利用促進などを進めると同時に、二酸化炭素の排出が避けられない産業から出た二酸化炭素を回収して地中に埋める、CCS(二酸化炭素回収・貯留、Carbon dioxide Capture and Storage)の導入が必要となる。試掘や貯留、二酸化炭素の輸送等に関する許可や規制など、この取組を拡げていくために必要な法制度を整備するための法案。

1. 産業構造の転換への支援について

【課題認識】

- ・産業構造の在り方やどの地域にどの産業をつかっていくのか、産業立地論をベースとしたグランドデザインが求められる。

村田：拠点整備に向けた国と自治体の役割、そして事業者の役割についてどのように考えるか？

近藤参考人：低成長と言われる時代の中で、もう一度このカーボンニュートラルエネルギーを使いながら成長をする機会として、産業構造転換は必要だと考えている。国の支援というものをきちんと決め、ある程度枠組みをつかっていくこと、それに対して、自治体さんも広域的な連携をしながら、自動車ですとか住民ですとかも巻き込んだ脱炭素社会の将来像を描く、それによって企業が、じゃ、僕たちもこう参画できるし、僕たちはこうやったら参画できるんじゃないかという議論が出ると思う。

同じ船に乗れるような、まず大きな船の絵を描くこと、そこに船を動かすための原動力になるような支援を入れること、そこで船に乗っていく方々が協調しながらある方向に向かってみんなで船をこいでいくこと、こういう流れができてくるのが一番いいことだと思っている。

村田：本法案でもいろいろな支援を定めてはいるが、この法案で十分だとお感じなのか、若しくはこうしたところをもっとやった方が良いという点があれば、教えていただきたい。

竹内参考人：審議会で十分な議論はできていると思うが、唯一今後やっていかなきゃいけないと思うのは、地域のグランドデザインを描くという作業。これがどこもできていない。それから各地域を今後どうやって伸ばしていくかを考える際には、フオアキャストだけでなく、将来の産業構造をどう変えていくかというバックキャストとの両方の議論ができるような場が必要ではないかなと考えている。

2. 他国の動向について

【課題認識】

- ・オーストラリアが鉄鋼業を誘致して、クリーンな鉄鋼産業を立ち上げるという話がある。
- ・4月末のG7の会合で、石炭火力の段階的廃止に関する年限が初めて明記されたが、国内エネルギーセキュリティの確保やアジアでのマーケットは存在している。

村田：オーストラリアでは、自分たちで鉄を造るんだという議論がどれだけ盛り上がっているのか？

竹内参考人：オーストラリアだけではなくて、カーボンニュートラル自体が産業構造転換の契機だとの認識が広がってきているのではないかと思います。米国のIRA・インフレ抑制法も、カーボンニュートラルという看板を掲げながら産業構造の転換を進めている。

村田：アジアには石炭火力発電のマーケットがある中、G7だけではなくアジアの枠組みがより大事になっていくのではないかと考えているが、その辺りの見解は？

竹内参考人：G7とG20でも相当に乖離が広がってきてしまっているところで、日本

はG 7 諸国を見て世界的な動向と捉えがちだが、本当にそれで世界のカーボンニュートラルに貢献できるのかと、ここは極めて真剣に問うべきところだろうと思う。

3. 公正な移行について

【課題認識】

- ・新しい産業に代わっていく場合には、公正な雇用の移行も考えなければいけない。
- ・化石燃料関連の雇用は何万人減るけれども、再エネ関連で何万人増えるというように、数だけが強調されてはいないか？

村田：新しい産業に代わっていく場合、働いている人にとっては、給与や雇用の場所、仕事の内容や質も重要だと思う。これから国がGX戦略を進めていく上で、雇用の点について見解を聞きたい。

竹内参考人：新しい産業が生まれるから雇用が増えるといったプラスの側面ばかりが強調されてきたが、失われる雇用といったところ、あるいは移行していかなきゃいけない人たちにどれぐらいの負担が掛かるのかといったようなところも含めて、プラスマイナス両方見るべき話ではないかなと思っている。

村田：会社にとっては、設備投資が要る、経営判断も要る、重要な話になっていく中で、このパートナー募集をこれからやられる上での課題や、この辺の条件が事業者の方にとっては厳しいのかなとか、そういう感触等を教えていただきたい。

中澤参考人：水素を年間1,000トンきっちり使うということ、長期にわたって安定的に水素を供給するということが一番重要になってくる。万が一システムが何らかの不具合で水素が供給できないということになったときに、その会社の仕事が止まってしまうと会社の経営にも影響を与えるので、そこのところはしっかりしたバックアップ体制も考えて事業計画を作っていかなきゃならないという話もしている。

企業の方々からは、新しい設備投資等でもうちょっと時間がほしいという話や、やはり年間千トンからの水素を供給する設備になりますと、大きな機械になってくるので、広い土地が必要という話も伺っている。

以上